

## 研修報告書 No.24

所 属 東邦大学医療センター大橋病院 研修医  
研修先 特定医療法人長生会 大井田病院  
医療法人聖真会 渭南病院  
宿毛市立 沖の島へき地診療所

私は初期研修2年間の最後となる3月の1ヶ月間を高知県の幡多地域で研修させていただきました。高知県での地域研修を希望した理由としては同級生に高知県で初期研修をしている者がいること、東京から遠い場所であることの2点ほどでした。しかし、幡多地域での研修は数多くの希望理由があっても良いと言える大変充実したものとなりました。

前半に研修させていただいた、大井田病院は宿毛市の市街にある病院でした。高齢者率は35%ほどであり、東京と比較するとはるかに高く、患者さんの大半も高齢者となり、最終目標をどのように設定していくのかという事を常に吟味して医療を提供していると肌で感じられました。訪問診療や訪問介護に同行させていただき、在宅での医療そして生活というのがどんなに素晴らしいものなのかを考えさせられました。

この宿毛市には幡多けんみん病院という大きな急性期病院があり、集中治療が必要となる患者さんはこの病院への搬送となることも少なくありません。ある日、自動車対自動車での交通外傷の傷病者が大井田病院に搬送されました。事故の概要からは即座に幡多けんみん病院での搬送も考えられましたが、できる事をしようと院長先生の指示で、診療の結果、大井田病院での入院で快方に向かいました。その際に、「けんみん病院の負担をとらなければ」とおっしゃられていた事は大変印象的でした。医療機関は持ちつ持たれつであり、地域で医療をしていこうという思いが伝わってきました。これは東京では全く感じる事のできないものであり、羨ましく思うとともに、今後の医療で必要となる精神ではないかと感じました。

沖の島診療所はまさに離島の小さな診療所であり、このような場所にいく機会、研修させていただくことは大変貴重でこのような機会を提供していただき大変感謝しております。ドラマになるほど事件はないですが(少しありました)、まさにDr. コトーであり、人材を含めての医療資源が少ないなかでの医療の難しさを感じました。離島だからこそ医療は絶対必要なものなのだと認識させられました。

後半の二週間は土佐清水市にある渭南病院での研修でした。渭南病院は大井田病院とは違い、最も近い四万十市の駅から40km程の距離があり、近くに急性期病院がないという環境のもと、全てを受け持っているという印象でした。全ての科の外来があり、病棟も一般病棟、地域包括ケア病棟、医療療養病棟と有し、在宅医療も行い、特養の嘱託医も担っており、いわゆる最初から最後までといった言葉がぴったりでした。初期研修病院では急性期ばかり

り重点的に見ているため、医療の構図をコンパクトに理解できるという点だけでも地域研修を選んで良かったと思える内容でした。院長先生をはじめとして、責任をもって患者さんを診て、地域を活性化していこうという熱意が医療人として大事なのだと改めて考えさせられました。風土や生活といった公衆衛生こそが医療の根源なのかといった考えが頭から離れなくなりました。

また、1ヶ月を通じて災害医療への意識の高さを感じさせられました。東京の研修病院においても災害対策として、災害訓練などは行っておりましたが、実際災害がくるという意識を持っているかと問われたら否でした。幡多地域では一般開業の先生がたも積極的に講習会などに参加しており、限られた資源しかないという事を理解し、その上で最大限の医療を行っていこうという精神が感じられ、私もこれからは同じ意識を持っていこうと思います。

最後になりましたが、地域研修でしか学ぶ事のできない数多くの経験をさせていただき、お世話になった先生方、スタッフの皆様に心から感謝申し上げます。